

平成14年度(2002年)

事業報告書

財団法人 日本テニス協会

平成14年度 主要会議報告

平成14年

4月16日(火) 第1回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
5月17日(金) 第2回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
5月24日(金) 第1回	理事会	岸記念体育会館4階会議室
5月24日(金) 第1回	評議員会	岸記念体育会館5階会議室
6月18日(火) 第3回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
7月17日(水) 第4回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
8月20日(火) 第5回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
9月27日(金) 第6回	常務理事・本部長会議	渋谷区勤労福祉会館会議室
10月22日(火) 第7回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
11月19日(火) 第8回	常務理事・本部長会議	有明コロシウム2階会議室
12月6日(金) 第9回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室

平成15年

1月24日(金) 第10回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
2月18日(火) 第11回	常務理事・本部長会議	渋谷区勤労福祉会館会議室
3月18日(火) 第12回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
3月25日(火) 第2回	理事会	新高輪プリンスホテル3階
3月25日(火) 第2回	評議員会	新高輪プリンスホテル3階

以上

平成14年度 表彰伝達式 受賞者一覧

功労賞

北海道テニス協会 : 高 畑 佳 史
東北テニス協会 : 佐 貫 莞 爾 ・ 菊 池 敬
関東テニス協会 : 房 前 博 人 ・ 岩 佐 久 和 ・ 野 口 勝 生
吉 田 宗 弘 ・ 輿 石 文 麿 ・ 星 通
黒 澤 弘 忠
東海テニス協会 : 松 原 孝 雄
関西テニス協会 : 藤 原 堅 三 ・ 米 澤 修 ・ 野 中 眞
杉 江 多 鶴 子 ・ 宇 野 治
中国テニス協会 : 高 橋 由 啓
九州テニス協会 : 太 田 五 郎 ・ 尾 辻 輝 男

企業賞

J T A : 株式会社エスディテック
国際大会委員会 : 静波リゾート開発株式会社
関西テニス協会 : 近畿コカ・コーラボトリング株式会社
ジュニア委員会 : 第一生命保険相互会社

優秀団体賞

J T A : 共栄学園中学校 ・ 柳川高等学校

優秀選手賞

強化委員会 : 鈴 木 貴 男 ・ トーマス 嶋田 ・ 寺 地 貴 弘
小野田 倫 久 ・ 杉 山 愛 ・ 藤 原 里 華

ジュニア大賞

ジュニア委員会 : 不 田 涼 子

優秀指導者賞

ジュニア委員会 : 竹 内 映 二

優秀審判賞

審判委員会 : 関 口 昌 代

メディア賞

広報委員会 : 神戸新聞社

以上

財団法人日本テニス協会 平成14年度 事業報告書

自平成14年4月1日 至平成15年3月31日

1. テニスの普及及び指導

(1) 全日本選手権キッズジュニアクリニックの開催〔選手委員会〕

例年通り全日本テニス選手権大会開催中の平成14年11月23日(土)・24日(日)の2日間、有明コロシアム・有明テニスの森公園テニスコートを使用して開催した。NTTドコモ社会環境室ならびにテニス部の協力をいただき、用具については(株)ダンロップスポーツ、ヨネックス(株)、ブリヂストンスポーツ(株)、ウィルソンジャパン(株)、ダイワ精工(株)、(株)ゴーセン、ミズノ(株)の各社をいただいた。指導スタッフは現役プレーヤーを含め37名の協力をいただいた。参加者は11月23日(土)が57名、11月24日(日)86名で合計143名であった。

(2) キッズテニスの積極的な普及〔普及指導委員会〕

- ① 8月4日東京・江東区開催、8月17日埼玉・川口市開催、10月19日新潟・長岡市にて開催の「カモンキッズ」への協力を行った。
- ② 前項に関連し、伊達事務所と密接に連絡を取り、打合せを行った。
- ③ 東京・中央区のキッズテニスの立上げに協力した。
- ④ 4団体(JTA・プロ協会・事業協会・女子連)の会議でキッズテニスの普及についての検討を行った。

(3) テニスの日事業に対する協力〔普及指導委員会〕

- ① 9月23日に「テニスの日メインイベント」を東京・有明テニスの森にて開催し、6,000名が参加した。
- ② 9月23日を中心にした9月下旬に「テニスの日共同イベント」を全国各地の15会場で開催した。また「テニスの日個別イベント」を全国各地会場で開催した。共同・個別イベント合計で約60,000名の参加があった。
- ③ 有明メインイベントのプレイイベントとしてテレコムセンターでキッズイベントを4回開催し、参加者数は合計で600名であった。
- ④ テニスの日推進協議会の本会議を年間3回、実行委員会を年間8回、有明委員会を年間4回開催するとともに必要に応じて事務局打合せを頻繁に行った。

(4) 技術・指導研究部会の発足、それに基づく指導方法の確立〔競技者指導育成推進委員会〕

技術・指導研究部会の発足、それに基づく指導方法の確立については、今年度は、予算面も厳しい折、部会設立ということではなく、必要に応じ、スポーツ科学委員、ナショナルコーチ、地域・都府県現場コーチの情報を得て当委員会でもとめた。

2. 全日本テニス選手権大会及びその他のテニス競技会の開催並びに国内で開催されるテニス競技会の後援、公認

(1) 各種国際大会の後援・公認〔国際大会委員会〕

<公認大会>

- ①東レ パン・パシフィック・テニス（東京/1月28日～2月2日）
- ②草津国際女子（群馬/4月17日～21日）
- ③カンガルーカップ国際女子（岐阜/5月1日～5日）
- ④福岡国際女子オープン（福岡/5月8日～12日）
- ⑤トヨタプリンセスカップ（東京/9月16日～22日）
- ⑥榛原国際女子（静岡/10月23日～27日）
- ⑦須玉国際女子（山梨/10月30日～11月3日）
- ⑧横浜ワールドテニス（神奈川/11月25日～12月1日）
- ⑨フューチャーズ：1)須玉（山梨/4月9日～14日）
2)白子（千葉/4月16日～21日）
3)高森（熊本/4月23日～28日）
4)SANIX（福岡/5月21日～26日・5月28日～6月2日）

(2)各種国内大会の主催ならびに後援・公認〔国内大会委員会〕

- ①平成14年度においては下記の各大会を主催した。（*共催含む）

<一般主催大会>

- 第26回 全日本都市対抗テニス大会
- JTA 女子サーキット 第1戦 関東国際女子オープン 2002
- 第41回 全国実業団対抗テニス大会（ビジネスパル）
- JTA フューチャーズ TTC 柏オープン 2002
- JTA 女子サーキット 第2戦 埼玉国際女子オープン 2002
- JTA フューチャーズ 埼玉グリーンオープン 2002
- JTA 女子サーキット 第3戦 広島国際女子オープン 2002
- JTA 女子サーキット 最終戦 日本電池マスターズ 2002
- 第57回 国民体育大会 テニス競技
- AIG OPEN 2002
- 第14回 アジア競技大会テニス競技
- 第16回 全国実業団対抗テニストーナメント
- 全国レディーステニス 決勝大会
- 第77回 全日本テニス選手権大会
- 第17回 テニス日本リーグ
- 第39回 島津全日本室内テニス選手権大会 2003

<ジュニア主催大会>

- トヨタジュニアテニストーナメント 2002
- SHUZO Challenge JAPAN OPEN JUNIOR 2002
- DUNLOP CUP 全国選抜ジュニアテニス選手権大会
- 第20回 全国小学生テニス選手権大会
- 第92回 全国高等学校テニス選手権大会
- 第25回 全国高等専門学校テニス選手権大会
- 全日本ジュニアテニス選手権大会
- 第29回 全国中学生テニス選手権大会
- 第10回 日・韓・中ジュニア交流競技テニス競技
- 2002 国民体育大会テニス競技
- ワールドスーパージュニアテニス 2002
- 2002 日植杯 RSK 全国選抜ジュニアテニス大会
- 第21回 中牟田杯全国選抜ジュニアテニス選手権大会

コカ・コーラカップ第23回全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会 2003
第25回 全国選抜高校テニス大会

<ベテラン主催大会>

第64回 全日本ベテランテニス選手権大会
全日本ローンコートベテランテニス選手権大会
日本スポーツマスターズ 2002

<学生公認大会>

全日本学生テニス選手権大会
全日本大学対抗テニス王座決定試合
全日本学生室内テニス選手権大会

②平成14年度においては下記の各大会を公認した。

JTT…10大会をはじめとし、JOP-A…107大会、JOP-B…14大会、JOP-C…40大会（ベテランA～Dグレード13大会含む）、ベテランEグレード15大会
学生…3大会の計189大会

(3)全日本選手権大会の開催〔国内大会委員会〕

平成14年11月17日(日)～24日(日)、有明テニスの森公園コート（含コロシウム）で開催。賞金総額26百万円。男女単複・混合複計5種目の本戦に、単96名、複80組、延べ256名が参加。観客合計24千人。男女共単決勝戦の様子はNHK教育TVが放映。

(4)トーナメント改革の実施〔国内大会委員会〕

平成13年度から準備にかかった抜本的改革を、改革に関わる規則類を整備して平成14年4月1日から実施し大過なく経過した。
実施過程で発見された修正点については平成15年度に活かし、トーナメントの更なる拡充を図りたい。

(5)各種大会へのレフェリー・審判員の派遣〔審判委員会〕

年間アサイメントの希望を取りまとめ、各大会のベストの審判員クルーをアレンジすべく努力している。長期にわたる予定のため、審判員の予定変更が多く、アサイメント担当者にとって大変な作業であった。

(6)全日本ベテラン選手権大会の開催(ベテラン委員会)

予 選：平成14年10月7日男子単 45,50,60,65 才以上

女子単 45,50,55,60 才以上

平成14年10月9日男子単 35,40,55 才以上、女子単 40 才以上

本 戦：平成14年10月8日～10月14日

種 目：男子単 35,40,45,50,55,60,65,70 才以上

男子複 35,40,45,50,55,60,65,70,75 才以上

女子単 40,45,50,55,60 才以上

女子複 40,45,50,55,60,65,70 才以上

会 場：名古屋市・東山公園テニスセンター

【室内外共砂入り人工芝コート20面（内室内4面）】

参加資格：1)JTAに当該年度の選手登録を行ったアマチュア・プロフェッショナル登録者

2)ベテランJOPランキング規程によるベテランJOP取得者

参加人数：予選 男子単 7 種目、女子単 5 種目 計 120 名
本戦 男子単 8 種目 208 名、複 9 種目 140 組 280 名 計 17 種目 488 名
女子単 5 種目 120 名、複 7 種目 108 組 216 名 計 12 種目 336 名
総計 29 種目 944 名

グレード：A

補 足：ベテラン JOP 対象大会は、グレード A の本大会を頂点として、B1(1 大会)、B2(2 大会)、C1(2 大会)、C2(2 大会)、D1(5 大会)、D2(2 大会)、E1(5 大会)、E2(13 大会)、および日本スポーツマスターズテニス競技の計 32 大会がある。

(7) 全日本ローンコートベテラン選手権大会の運営協力(ベテラン委員会)

本 戦：平成 14 年 11 月 6 日～16 日

種 目：全日本ベテラン選手権大会と同様の男女単複 29 種目

会 場：佐賀市・ウィンブルドン九州テニスクラブ

参加資格：JTA の加盟選手にして、アマチュア・プロフェッショナルを問わず当該年度の選手登録を JTA に行った者

参加人数：男子単 8 種目 146 名、男子複 9 種目 71 組 142 名、計 17 種目 288 名
女子単 5 種目 65 名、女子複 7 種目 83 組 166 名、計 12 種目 231 名
総計 29 種目 519 名

グレード：B1

補 足：全日本ベテラン選手権大会に次ぐ大会であり、わが国唯一の天然芝コートの会場である。

(8) ベテラン JOP 対象大会の新設(ベテラン委員会)

長寿社会を迎えた今日、47 都道府県協会のベテランテニスの普及と活性化を助長するとともに、各協会の更なる繁栄を祈念して当委員会が策定した「ベテランテニスの発展拡充計画」の一方策として、下記条件に合致する各協会主催大会にベテラン JOP を付与することを平成 13 年 11 月 21 日の常務理事・本部長会議に提案、承認された。

- ① 全日本ベテラン大会開催種目中、男女計 6 種目以上開催の大会であること。
 - ② 申請大会は各協会 1 大会とするが、北海道協会は 2 大会までとする。
 - ③ アマ・プロ・賞金・選手登録の有無を問わず、全国に参加を開放する大会はグレード E1、前記以外はグレード E2 とする。
 - ④ JTA に選手登録をしている者は、当該年度の全日本ベテラン大会の参加申込みにあたって、取得した高得点の E ポイント 1 大会分に限り加算して申込みをすることができる。選手登録をしていない者には E ポイントは付与しない。
- 以上の結果、平成 14 年度の公認大会は、E1 大会 5、E2 大会 13、計 18 大会となり、JTA への選手登録は平成 13 年度末 4,655 名に対し、平成 14 年度末には 5,171 名に増加した。

平成 15 年度の E 大会承認大会は、E1 大会 6、E2 大会 19、計 25 大会に増加しているため、ベテラン選手登録者は更に増加するものと思われる。

(9) 日本スポーツマスターズ競技の運営協力(ベテラン委員会)

財団法人日本体育協会主催大会の委託事業として本テニス競技を共同主催し、神奈川県テニス協会が運営主管して第 2 回本大会の運営に協力した。

代表者会議：平成 14 年 11 月 8 日 14：00～15：00

新横浜プリンスホテル会議室 出席者 40 名

- 開 会 式：平成 14 年 11 月 8 日 18：00～19：30
 横浜プリンスホテル 出席者 1,400 名
- 期 日：平成 14 年 11 月 9 日～12 日
- 会 場：横浜市・三ツ沢公園庭球場（砂入り人工芝コート 20 面）
- 開 始 式：平成 14 年 11 月 9 日 9：00～
 大会会長挨拶 盛田正明日本テニス協会会長（参加者は全員出席）
 歓迎挨拶 岩淵元神奈川県テニス協会会長
- 種 目：男子単 35 才以上、男子複 45 才以上、女子単複 40 才以上、各 48 ドロー
- 参 加 資 格：JTA 選手登録者にして、各協会の推薦（男女単複各 1 名 1 組）による者。辞退が出た場合は、あらかじめ順位をつけて複数参加を申し出た協会を対象に、ベテラン JOP ランキング順にワイルドカードとして割り当てる。
- 参 加 人 数：男子単 45 名、男子複 39 組（78 名） 計 123 名
 女子単 48 名、女子複 44 組（88 名） 計 136 名 総計 259 名
 不参加県が 7 府県あり、従って参加率は定数の 90 % となった。
- 補 足：初回戦敗者による単複コンソレーションマッチと、別に定めるトーナメント勝敗ポイントの集計による各協会別の団体賞を新設した。

(10)国内ベテラン大会の視察(ベテラン委員会)

第 26 回全日本ローンコートベテラン選手権大会を、大会副委員長として 11 月 14 日～16 日（最終日）に視察し、優勝者の表彰式に出席するとともに、運営委員長古藤浩氏（佐賀県協会会長）やトーナメントディレクター緒方うらら氏（ウィンブルドン九州社長）、トーナメントレフェリー佐伯洋氏等と本大会の反省事項ならびに次年度の打合せ会談を行った。

(11)テニス日本リーグの開催〔実業団委員会〕

- ① 1st ステージ：平成 14 年 12 月 6 日（金）～8 日（日）
- ② 2nd ステージ：平成 15 年 1 月 23 日（木）～26 日（日）
 ＊ 1st、2nd ステージは横浜国際プール・荏原 SSC・松本やまびこドーム・北九州穴生ドーム
- ③ 決勝トーナメント：平成 15 年 2 月 15 日（土）～16 日（日）会場は東京体育館
 男子 16 チーム・女子 10 チームをそれぞれ 2 ブロックに分けリーグ戦を行い、各ブロック上位 2 チーム、計 4 チームによる決勝トーナメントの実施。試合は 2 シングルス・1 ダブルスにて行う。デ杯・フェド杯選手、JOP 上位選手出場で大会の充実あり、選手・運営・観客の一体化を目指しているが、近付きつつある。地域差はあるが総数 1 万人を超える観客動員があり、特に決勝トーナメントでは、1 日 3 千人を観客を動員することができた。また、各会場にて 1st ステージの土曜にジュニアクリニックを開催、出場チームの選手が指導。

(12)実業団対抗大会の実施〔実業団委員会〕

- ① 第 16 回全国実業団対抗テニストーナメント（A 大会）
 平成 14 年 10 月 24 日（木）～27 日（日）、会場は大阪・江坂テニスセンター。
 男子 16、女子 12 チームによるトーナメントで、男子上位 4 チーム、女子上位 2 チームが日本リーグに昇格する。なお、試合は日本リーグと同じく 22 シングルス・1 ダブルスにて行う。
- ② 第 41 回全国実業団対抗テニス大会（ビジネスパル・テニス）

平成14年8月30日(金)～9月1日(日)、会場は軽井沢風越町営テニスコート・NIKOSテニスクラブ。男子32チーム、女子24チームの2シングルス・1ダブルスによるリーグ戦及びトーナメントを行う。リーグ戦各ブロックの順位ごとにトーナメントを行い、全チーム2～3日間にわたり試合を行う。当委員会の普及大会であるが、年々レベルの向上が見られる。選手の熱気が感じられ、選手間のコミュニケーションも深まり、懇親夕食会の盛り上がりは素晴らしい。

(13)国民体育大会テニス競技の運営〔国体委員会〕

第57回国民体育大会(高知国体)

期 日：平成14年9月21日(土)～24日(火)

場 所：成年男子・女子は高知県大方町、少年男子・女子は高知県春野町

参加人数：成年男子32都道府県96人、成年女子32都道府県96人

少年男子43都道府県129人、少年女子47都道府県141人、合計462人

大方町、春野町の2会場で開催されたが、前年春野町で行なわれたリハーサル大会(全日本都市対抗テニス大会)での経験を生かし、無事何事もなく終了しました。

第1日目の大方町に秋篠宮殿下、同妃殿下がお成りになり、地元高知県成年男子の試合をご観戦頂きました。

(14)全日本対抗テニス大会の実施〔国体委員会〕

第26回全日本都市対抗テニス大会(第58回国民体育大会リハーサル大会)

期 日：平成14年7月25日(木)～28日(日)

場 所：静岡県浜松市・花川運動公園テニスコート

参加人数：32都道府県、450人

来年行われる国民体育大会の運営のリハーサル大会として開催。6年前の正規視察より準備を進めてきた地元静岡県テニス協会のご協力を得て、無事終了するも、この経験を生かし本大会の成功にむけ、後1年準備をしてもらいたいを思います。

3. テニスに関する国際競技会を開催し、又は国際競技会への代表者の選考及び派遣並びに外国からの選手等の招聘

(1)アジア大会への参加〔強化委員会〕

期 日：平成14年10月2日～12日

会 場：韓国・釜山

選手団：白石正三監督、兼城悦子コーチ、田島孝彦マネージャー

鈴木貴男、本村剛一、寺地貴弘、トーマス嶋田、小野田倫久各選手

浅越しのぶ、佐伯美穂、小畑沙織、森上亜希子、吉田友佳各選手

村木良博トレーナー、山下且義トレーナー、小川由紀子ストリンガー

結 果：団体戦

男子団体(鈴木貴男・寺地貴弘・小野田倫久・トーマス嶋田)…金メダル

女子団体(浅越しのぶ・小畑沙織・佐伯美穂・吉田友佳)…銀メダル

個人戦 男子シングルス 鈴木貴男…銅メダル

女子シングルス 浅越しのぶ…銅メダル

女子ダブルス 吉田友佳・佐伯美穂…銅メダル

女子ダブルス 小畑沙織・森上亜希子…銅メダル

(2) デビスカップへの参加〔強化委員会〕

- ① 2002 デビスカップ アジア・オセアニアゾーン グループ I 2R 対タイ戦
期 日：平成 14 年 4 月 5 日～7 日
会 場：タイ・バンコク
結 果：1 勝 4 敗
チー ム：神和住純監督、白石正三コーチ、田島孝彦マネージャー
鈴木貴男、本村剛一、トーマス嶋田、寺地貴弘各選手
山下且義トレーナー、小川由起子ストリンガー
- ② 2003 デビスカップ アジア・オセアニアゾーン グループ I 1R 対インド戦
期 日：平成 15 年 2 月 7 日～9 日
会 場：インド・ニューデリー
結 果：1 勝 4 敗
チー ム：神和住純監督、ボブ・ブレットスーパーバイザー、田島孝彦マネージャー
鈴木貴男、本村剛一、トーマス嶋田、加藤純、寺地貴弘各選手
山下且義トレーナー、小川由起子ストリンガー

(3) フェドカップへの参加〔強化委員会〕

- 2002 フェドカップ ワールドグループ プレーオフ 対コロンビア戦
期 日：平成 14 年 7 月 20 日～21 日
会 場：コロンビア・ボコタ
結 果：相手国であるコロンビアの治安が悪いことから棄権のやむなきに至った。

(4) ナショナルジュニア海外遠征〔強化委員会〕

<団体戦>

- ① 2002 ジュニアデビスカップ アジア・オセアニア予選 男子
(平成 14 年 5 月 17 日～27 日 マレーシア) … 4 位 (世界大会進出)
田村伸也監督、中原健一郎・宇田裕一・井藤祐一各選手
- ② 2002 ジュニアデビスカップ 世界大会
(平成 14 年 9 月 9 日～14 日 フランス) … 13 位
田村伸也監督、中原健一郎・宇田裕一・井藤祐一各選手
- ③ 2002 ジュニアデビスカップ アジア・オセアニア予選 女子
平成 14 年 5 月 10 日～20 日 (インドネシア) … (予選敗退)
米沢そのえ監督、田中真梨・瀬間友里加・富山姫子各選手
- ④ 2002 ワールドジュニア アジア・オセアニア予選 男子
(平成 14 年 4 月 25 日～5 月 6 日 スリランカ) … 6 位 (予選敗退)
右近憲三監督、喜多文明・山本健尊・小野加寿也各選手
- ⑤ 2002 ワールドジュニア アジア・オセアニア予選 女子
(平成 14 年月 4 日～13 日 インドネシア) … 6 位 (予選敗退)
溝口美貴監督、井上明里・守内千絵・矢竹里美各選手

<個人戦>

- ① U16 トヨタジュニア遠征
(平成 14 年 6 月 18 日～7 月 20 日 フィジー、ニュージーランド、オーストラリア)
田村伸也・米沢そのえ各監督、中原健一郎・宇田裕一・井藤祐一・小野加寿也・岡あゆみ・高雄恵利加・福井恵実・大見真衣子各選手
- ② U18 ヨーロッパ遠征

(平成 14 年 5 月～7 月 ベルギー、フランス、スペイン、イギリス)
笠原康樹コーチ、添田豪選手

③ U18 オセアニア遠征

(平成 14 年 6 月 フィジー、ニュージーランド、オーストラリア)
兼城悦子・山中夏雄各コーチ、不田涼子・川床萌各選手

④ U14 ヤングスター遠征

(平成 14 年 7 月 4 日～8 月 5 日 フランス、ドイツ、オランダ)
右近憲三・溝口美貴各監督、喜多文明・小ノ澤新・福井恵実・加藤茉弥
*修造チャレンジ：櫻井隼人監督、錦織圭・富田玄輝各選手

⑤ U18 男子アメリカ遠征

(平成 14 年 8 月 23 日～9 月 8 日 カナダ、アメリカ)
笠原康樹コーチ、添田豪選手

⑥ U18 女子アメリカ遠征

(平成 14 年 8 月 20 日～9 月 17 日 カナダ、アメリカ)
兼城悦子コーチ、不田涼子選手

⑦ U18 男子アジア遠征

(平成 14 年 10 月 18 日～11 月 12 日 タイ、ブルネイ、マレーシア)
田村伸也コーチ、中原健一郎選手

⑧ U18 女子アジア遠征

(平成 14 年 10 月 12 日～11 月 5 日 香港、タイ、ブルネイ)
米沢そのえ・兼城各コーチ、川床萌選手

⑨ U18 男子アジアフューチャーズ遠征

(平成 14 年 10 月 21 日～11 月 20 日 香港・タイ)
笠原康樹コーチ、添田豪選手

⑩ U18 男子アメリカ遠征

(平成 14 年 12 月 5 日～15 日 アメリカ)
田村伸也コーチ、添田豪選手

⑪ U18 男子オーストラリア遠征

(平成 14 年 12 月 30 日～平成 15 年 1 月 26 日 オーストラリア)
笠原康樹コーチ、中原健一郎

⑫ U18 女子オーストラリア遠征

(平成 14 年 12 月 28 日～平成 15 年 1 月 28 日 オーストラリア)
米沢そのえ・兼城悦子各コーチ、不田涼子・川床萌各選手

⑬ U18 男子インド遠征

(平成 14 年 12 月 6 日～12 日 インド)
笠原康樹コーチ、中原健一郎選手

⑭ U16 男子オセアニア遠征

(平成 15 年 1 月 28 日～3 月 3 日 ニュージーランド、オーストラリア)
岩本功コーチ、喜多文明・竹内研人各選手

⑮ U16 女子オセアニア遠征

(平成 15 年 1 月 28 日～3 月 3 日 ニュージーランド、オーストラリア)
米沢そのえ・山中夏雄各コーチ、田中真梨・高雄恵利加・福井恵実・川村美夏
各選手

(5)各種国際大会の開催、後援・公認ならびに外国からの選手招聘〔国際大会委員会〕
＜主催大会＞

- ①島津全日本室内テニス選手権大会（京都/3月4日～10日）
- ②女子サーキット：1)関彰国際女子（茨城/9月4日～8日）
2)グリーンプラザ（埼玉/9月4日～8日）
3)広島国際女子（広島/9月11日～15日）
4)日本電池（9月19日～22日）
- ③フューチャーズ：1)柏（千葉/9月3日～8日）
2)埼玉（埼玉/9月10日～14日）
- ④AIG ジャパンオープン（東京/9月30日～10月6日）

(6)ベテラン世界大会への選手派遣〔ベテラン委員会〕

- ①ITF主催年齢別世界選手権Aグループ大会（USA・フロリダ各地）
 - <団体戦>（4月22日～28日）2チーム7名
 - 1)男子40才以上（TONY TRABERT CUP）NAPLES 13ヶ国中11位
宮崎雅・岩見亮・野口賢一・藪田恵士
 - 2)男子45才以上（DUBLER CUP）WEST-PALM BEACH 20ヶ国中16位
廣岡孝通・西垣彰二・宮本恵造
 - <個人戦>（4月29日～5月5日）FORT LAUDERDALE 14名
 - 1)男子35才以上 古川剛士・荷川取浩・加藤全孝
 - 2)男子40才以上 岩見亮・野口賢一・藪田恵士・小槻浩史・山田辰巳・重松建宏
 - 3)男子45才以上 廣岡孝通・西垣彰二
 - 4)男子50才以上 大倉清宏・平岡一高・田中孝

注）2001年9月11日NY事件後の大会だけに、女子は団体・個人戦共に参加申込者は皆無だった。
- ②ITF主催年齢別世界ベテラン選手権Bグループ大会（オーストリア）
 - <団体戦>（9月9日～15日）7チーム27名
 - 1)男子60才以上（VON CRAMM CUP）ST.KANZIAN 24ヶ国中22位
広瀬均・藤井道雄・玉水義一・守屋明
 - 2)男子65才以上（BRITANNIA CUP）VELDEN 20ヶ国中14位
伊藤光郎・徳弘晴輝・藤原堅三・辻本明
 - 3)男子70才以上（JACK CRAWFORD CUP）PORTSCHACH 15ヶ国中4位
宮城淳・森成蹊・池田富士夫・宮地邦雄
 - 4)女子55才以上（MAUREEN CONNOLLY CUP）VIENNA 16ヶ国中13位
藤波佳子・古永安子・高木孝子
 - 5)女子60才以上（ALICE MARBLE CUP）BAD HOFGASTEIN 13ヶ国中10位
南井多恵子・手塚美智子・植木清美・山本順子
 - 6)女子65才以上（KITTY GODFREE CUP）VELDEN 14ヶ国中14位
村松敏子・森本美江・井上文枝・柴山和子
 - 7)女子70才以上（ALTHEA GIBSON CUP）PORTSCHACH 12ヶ国中7位
重光知津子・石井伸子・神保美智子・山田久子
 - <個人戦>（9月16日～22日）VELDEN 46名
 - 1)男子55才以上 西岡龍雄・林俊明
 - 2)男子60才以上 広瀬均・藤井道雄・玉水義一・守屋明・鈴木秀之・
安達正純・平澤敏之・立田宏・神谷邦夫
 - 3)男子65才以上 藤原堅三(単Best16)・伊藤光郎・徳弘晴輝・辻本明・
松堂力・坂上日出夫・鈴木康司・小畑寿男・栗田俊男・鳴海孝雄
 - 4)男子70才以上 宮城淳(単複ベスト8)・石川哲二(複Best8)・森成蹊・

宮地邦雄

5)女子 55 才以上 高木孝子・伊藤寿美子・本間真弓・樋口五十鈴

6)女子 60 才以上 南井多恵子／手塚美智子(複ベスト 8)・

植木清美／山本順子(複 Best8)・平山礼子・池田和子・武谷千枝子・徳弘千世香

7)女子 65 才以上 村松敏子・森本美江・井上文枝・鈴木美智子・柴山和子

8)女子 70 才以上 重光知津子・石井伸子・神保美智子・山田久子

※なお①②の派遣は、団体戦参加料「250ドル(1チーム)×9チーム」以外は全て全額自己負担。

③ ATF 主催 東アジア都市対抗国際ベテラン大会 (11月17日～23日) 中国・深圳

種 目：男子複 45,50,55,60,65 才以上、女子複 50 才以上、

混合複各 1 組、計 7 組の団体戦

参加都市：バンコク・上海・東京・台北・香港・ソウル・深圳・北京・

シンガポール (順位順)

参加選手：柳沢 彰・土屋善二・渡辺 聡・中村靖之介・木村康彦・北野 正・

守屋 明・平澤敏之・神谷義紀・村上交周・菊池幹樹・菊池宏樹・

葦沢寿美子・樋口五十鈴・小野悦子 以上 15 名 (自己負担)

④ ITF 公認 第 16 回北京市国際元老網球大会 (10月16日～21日)

中国・北京特別市

種 目：男子単 40,45,50,55,60 才以上、複 40,45,50,55,60,65,70,75,80 才以上

女子単 35,40,45,50 才以上、複 35,40,45,50,55,60,65 才以上

混合複 90～114 才以上、115 才以上

参加資格：JTA への選手登録の有無を問わず自由参加。

参 加 者：佐藤国三郎・浅川義基・久保田護・

千葉淳治／土屋善二(65 才以上複優勝・混合優勝)・松川 清・

水谷 裕・村上交周・小路康男・小泉 茂・黒崎輝彦・岡 和郎・

岡 暁子・角谷 弥・角谷衣世・山中寿子・近藤早苗・町原和子・

宗玄恵美子・富和ヒロミ・宮本節子・千葉穂子・林 静子・

佐々木利恵子・山口文枝(混合優勝) 以上 25 名 (自己負担)

(7) AIG オープン 2002 の開催 [ジャパンオープン委員会]

AIG の冠大会として 2 年目を迎え、9 月 30 日～10 月 6 日まで、有明テニスの森公園コートで開催、参加選手は昨年覇者 R.ヒューイト等世界のトップ選手が出場、大会はアジア盛大のテニスの祭典を目指し、期間中試合を観るだけでなく、会場でのアトラクションやイベントを開催するなど、多いに盛り上がりのある大会として開催。試合は前半台風の為の天候不順からトップ選手がコンディショニングに苦労した。このためもあり、男女ともトップ選手が相次いで敗退、決勝は男女ともシード選手が一人も残らないという異常事態になった。しかし事前 PR でトップ選手の参加が十分に伝わったせいもあり、切符の前売りの状況が良く週末は 2 日で 17,000 人の観客が集まった。1 週間合計で 44,550 人と昨年比 8,800 人強の増加で、集客面ではようやくテニスのフェスティバル構想が実ってきたのではと感じた大会であった。

4. テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定

(1) 国際審判員・レフェリーの養成事業の実施 [審判委員会]

① 有望新人の発掘と養成のため指導員の研修派遣

新人の発掘と養成が出来る認定指導員が限られており、また彼等自身国内及び海外での審判・レフェリーの実務を行わねばならないため、派遣回数も、限定されたが、テニスの日における指導会、イザワ X'mas オープンにおける指導により、審判・レフェリーへの関心を高めることができた。

② 有望新人の海外・国内大会への派遣

海外での大会への参加は、主催者のノミネーションが必要なため、ベテラン中心の派遣にならざるを得ないので、国内における国際大会で経験を積ませるべく延べ7名を審判委員会から派遣した。

③ ITF レベル I スクールの開催

国際審判員育成のための ITF レベル 1 スクールを開催した。審判技術だけでなく、語学の研修にもなり、今後も出来るだけ多くの機会を提供していきたい。

(2) 審判員・レフェリーの養成事業ならびに審判講習会の実施〔審判委員会〕

① C 級審判員認定会

都道府県からの要望により認定会及び講習会を合計 47 回開催し、およそ 1,500 名の新規審判員を誕生させた。この中から国際審判員を育てていきたい。

② B 級審判員認定会：

予定の倍の 4 回開催した。

③ A 級審判員認定会：

予定通り全日本選手権の主審を実地試験として認定会を行った。1 名の A 級審判員を認定し 5 名となった。来年度から、日本を代表し審判員の模範となるに足る A 級審判員を選定するため、選考方法を含め改訂する予定である。

④ B 級レフェリー認定会：

平成 15 年 4 月以降、B 級審判員の資格がないと B 級レフェリーの資格取得ができなくなるため、予定を越えて認定会を行った。約 100 名の新しい B 級レフェリーが誕生した。

⑤ 学生のための講習会：

国体開催地における審判講習会は恒例となっているが、新たに専門学校において、講習会を行う計画が実現し、平成 15 年 4 月に第 1 回講習会を行うことになった。現在希望する専門学校は 3 校であり、資格を取得させ、国内の多くの大会で技術を磨いて貰いたいと考える。

(3) 諸外国の審判の実態把握の実施ならびに審判員の待遇改善〔審判委員会〕

① 諸外国の審判の実態把握については、川廷、岡本、松野の国際審判員による海外情報が豊富であり、他の委員会への協力も行った。

② 審判員の待遇改善については、平成 14 年のみならず継続して待遇改善を試みているが、昨今の経済環境を考慮し、また他の委員会とも協調し、改善が図れるよう努力していきたい。

(4) 審判員・レフェリーの登録管理〔審判委員会〕

平成 15 年度の公認審判員・レフェリー更新登録者数：

公認審判員 : 1,390 名

B 級レフェリー : 66 名

(5) 文部大臣認定事業公認指導者資格付与〔普及指導委員会〕

公認指導者資格認定会を下記の通り開催した。(参加者数は再検定者含む)

- ①公認 C 級コーチ：前期は大阪にて 2002/12/16～19 に開催し参加者は 35 名。
後期は東京にて 2003/2/18～21 に開催し参加者は 36 名。
- ②公認 C 級教師：前期は大阪にて 2002/12/16～19 に開催し参加者は 9 名。
後期は東京にて 2003/2/19～23 に開催し参加者は 10 名。
- ③公認 C 級教師（専門学校）：東京にて 2003/2/19～23 に開催し参加者は 43 名。
- ④公認 A 級スポーツ指導員：東京にて 2003/2/18～22 に開催し参加者は 12 名。
- ⑤公認 B・C スポーツ指導員：大阪・兵庫・岡山・三重・富山・滋賀・島根・沖縄の各府県で認定事業を行った。

(6) コーチーズカンファレンスの開催〔普及指導委員会〕

平成 15 年 3 月 8 日(土)～9 日(日)に国立スポーツ科学センター（東京都北区）において、352 名の参加者で開催した。

(7) 公認スポーツ指導者養成講習会の開催〔普及指導委員会〕

各都道府県において普及員の養成講習会を行った。

(8) 公認スポーツ指導者講師全国研修会の開催〔普及指導委員会〕

平成 14 年 10 月 26 日～27 日に、東京・昭和の森にて(財)日本体育協会助成事業の研修会を開催し参加者 30 名であった。

5. テニスの競技力向上

(1) デビスカップ強化合宿〔強化委員会〕

- ① 2002 デビスカップ 対タイ戦
期 日：3 月 25 日～28 日 国内合宿（朝日生命久我山スポーツセンター）
3 月 29 日～4 月 4 日 現地合宿
- ② 2003 デビスカップ 対インド戦
期 日：1 月 27 日～30 日 国内合宿（法政大学多摩キャンパス）
2 月 1 日～6 日 現地合宿

(2) ジュニア強化合宿〔強化委員会〕

- ① U14 ナショナルジュニア女子強化合宿
（平成14年 10 月 17 日～20 日 三重県津市）
- ② U16・14 ナショナルジュニア男子強化合宿
（平成14年 11 月 23 日～24 日 有明テニスの森公園）
- ③ U15 ナショナルジュニア女子強化合宿
（平成14年 12 月 23 日～27 日 三重県津市）
- ④ U15 東レ PPO 女子合宿
（平成15年 1 月 31 日～2 月 2 日 東京都）
- ⑤ U14・12 ナショナルジュニア女子強化合宿
（平成15年 2 月 8 日～11 日 三重県津市）
- ⑥ ジュニアデビスカップ／ジュニアフェドカップ アジア・オセアニア予選
日本代表選手選考／強化合宿
（平成15年 3 月 7 日・8 日 朝日生命久我山スポーツセンター）
- ⑦ ワールドジュニア アジア・オセアニア予選 日本代表選手選考／強化合宿

(平成15年3月15・16日 九州国際テニスクラブ)

⑧修造チャレンジ トップジュニアキャンプ

1)平成14年11月 修造チャレンジ トップジュニアキャンプ

(Aチーム:11月15日～17日、Bチーム:11月12日～14日

朝日生命久我山スポーツセンター)

2)平成15年3月 修造チャレンジ トップジュニアキャンプ

(平成15年3月11日～15日 シーガイアテニスクラブ)

(3)ナショナルコーチによる国際大会視察ならびに国内大会視察の実施〔強化委員会〕

4月のトヨタジュニアを始め、各主要大会を視察。

(4)ナショナル強化指定選手のスポーツ科学的サポート〔スポーツ科学委員会〕

平成14年に開催されたAIGオープンおよび全日本選手権でのゲーム分析およびビデオでのバイオメカニクスの分析によって、ナショナル強化指定選手に対してデータを通しての科学的サポートを行った。また平成15年の1月11～13日に、国立スポーツ科学センター(JISS)で開催されたトレーニング測定合宿においても、強化指定選手に対して体力・メンタル・栄養・バイオメカニクスの分析を行い、その結果から個人にフィードバックを行った。(toto助成金対象事業)

(5)ITF、USカンファレンス等国際ワークショップの参加〔スポーツ科学委員会〕

事情により実施せず。

(6)国内大会ならびに国際大会等の視察および戦術・ゲーム分析〔スポーツ科学委員会〕

平成14年度に開催されたデ杯、全日本ジュニアテニス選手権大会、ワールドスーパージュニアテニス選手権大会、中牟田杯、全国中学校テニス選手権大会、全国小学生テニス選手権大会、AIGオープン等のゲーム・戦術分析を行い、年齢ごとの動き・スピードおよび戦術等の比較、検討を行った。(toto助成金対象事業)

(7)スポーツ科学的調査、測定、実験、およびスポーツ科学情報の充実〔スポーツ科学委員会〕

①ジュニアテニス選手を対象として全国9地域において、テニスフィールドテストを実施した。各県から測定の代表者を選出し、測定方法およびデータの処理方法等の指導を行った。来年度に向けて、メーリングリストを作成し、データの収集およびジュニア選手の体力についての情報交換を行っていく方向である。(toto助成金対象事業)

②ジュニアテニス選手、大学選手および世界トップ選手を対象とした動きのスピードの測定およびサーブのバイオメカニクスの分析を行った。AIGオープンに出場した選手、ジュニアの強化指定選手、および大学のインカレ選手を対象に、サーブおよびコート上での動きについて、ビデオカメラおよび光電管を用いて分析を行い、その結果を報告書にまとめた。(JISS委託研究助成対象事業)

(8)ジュニア選手(地域ジュニア選手を含む)のトレーニング・測定合宿のサポート〔スポーツ科学委員会・強化委員会・ジュニア委員会〕

平成15年1月11～12日に国立スポーツ科学センター(JISS)で、強化指定のジュニア選手および地域から選抜されたジュニア選手を対象に測定およびトレーニング合宿を行った。男女合わせて24名の参加があり、体力・メンタル・栄養・バイオメ

カニクスの分析を行い、各個人に指導を行った。また体力トレーニング方法の指導も合わせて行った。

(9) 地域ジュニア選手強化講習会の実施〔ジュニア委員会〕

①プロテニスプレーヤーによる世界のトッププレーヤーの技能の分析と実践講習会
日本のトップ選手の技能（技術、体力、精神力）と世界のトップ選手の技能との差異を、世界を転戦するプロテニスプレーヤーの実体験をもとに分析し、その対応策を各地（全国6地域）の競技力指導者へ指導実習するとともに、各都道府県代表選手の実践練習会を実施した。（文部科学省委嘱事業）

1) 関西

会 場 大阪産業大学 生駒テニスコート
期 日 11月15日（金）～17日（日）
講 師 プロ：遠藤愛
ナショナルコーチ：米沢そのえ

2) 北海道

会 場 宮の沢屋内競技場
期 日 11月15日（金）～17日（日）
講 師 プロ：山本育史
ナショナルコーチ：広瀬均

3) 東海

会 場 長良川テニスプラザ
期 日 平成15年1月4日（土）～6日（月）
講 師 プロ：沢松奈生子
ナショナルコーチ：田村伸也

4) 北信越

会 場 辰口丘陵公園テニスコート
期 日 2月6日（金）～8日（日）
講 師 プロ：丸山 薫
ナショナルコーチ：土橋 登志久

5) 四国

会 場 愛媛県総合運動公園
期 日 2月14日（金）～16日（日）
講 師 プロ：村上 武資
ナショナルコーチ：田村 伸也

6) 九州

会 場 博多の森テニスコート
期 日 3月14日（金）～16日（日）
講 師 プロ：長塚 京子
ナショナルコーチ：広瀬 均・田島 孝彦

②地域ジュニア指導者リーダー養成事業（スポーツ振興くじ助成金事業）

ジュニア指導者リーダーを対象に講習会を開催、各地域においてナショナルコーチを講師に先進の指導理論の講習を行なった。コート上ではジュニア選手の実践的指導を行なった。

1) 中国

会 場 風の国 室内コート（島根県）
期 日 10月8日（金）～10日（日）

講 師 藤井 道雄、白石 正三、田島 孝彦、平岡 康治
2)東北
会 場 いこいの村 岩手 (岩手県)
期 日 1月24日 (金) ~ 26日 (日)
講 師 梅林 薫、森井 大治、中村 寛孝

(10)ジュニア選手発掘のためジュニア大会視察〔ジュニア委員会〕

ジュニア選手の成長過程の確認も含め、選手発掘を兼ねた下記の大会視察を精力的に行った。

4月：トヨタジュニアテニストーナメント2002
8月：ダンロップ 全日本ジュニアテニス選手権大会2002
10月：2002 第18回 日植杯 RSK全国選抜ジュニアテニス大会
11月：2002 U-15 全国選抜ジュニアテニス選手権大会 (第21回中牟田杯)

(11)日韓テニス トップジュニアキャンプの開催〔ジュニア委員会〕

文部科学省の「スポーツ交流推進事業」の委嘱を受け、以下の通り事業を実施した。

- ・事業名 : 日韓テニス トップジュニアキャンプ
- ・実施期間 : 平成15年1月30日 (木) ~ 平成15年2月4日 (火)
- ・事業の内容 : 世界で活躍することを目標としている両国のトップジュニア選手及びその指導者が交流試合などを通じて交流し、隣国同士の相互理解を深め競技力の向上に努めた。また同時期に行われる国際大会「東レ・パシフィックオープン」の試合観戦や練習見学、著名なレフェリーのセミナーなどを通じて「世界のテニス」を学んだ。

(12)JOC 一貫指導システム事業の推進〔競技者指導育成推進委員会〕

13年度に作成した「強化指導指針」に基づき、

- ・この内容の理解と徹底をいかに図るか
- ・この基本方針をいかに具体化するか を話し合うために次の委員会を持った。

第1回 平成14年5月18日 (土) 吉田記念テニス研修センター

参加者：広瀬均、飯田藍、梅林薫、中嶋康博、橋爪功、塚本新治、福井烈、
岩月俊二、井上直子、浅沼道成、中原かおり、緒方うらら、畑山雅史

内 容：地域への啓蒙活動計画方針会議

- ①競技者指導育成推進委員会14年度事業計画について
- ②ジュニア委員会14年度事業計画について
- ③予算について
- ④技術部会について
- ⑤育成・強化プログラムについて
- ⑥地域トレーニングセンター設置状況について
- ⑦委託助成金について
- ⑧ジュニア発掘について
- ⑨育成・強化プログラムの具体的内容について

第2回 平成14年7月21日 (日)・22日 (月) 岸記念体育会館

参加者：広瀬均、飯田藍、梅林薫、橋爪功、塚本新治、岩月俊二、井上直子、
浅沼道成、中原かおり、西村覚、緒方うらら、畑山雅史

内 容：「一貫指導システム」指導書作成のための会議

- ①強化・育成プログラム作成について

- ②トレーニングセンターシステム構築について
- ③優れた指導者の養成について
- ④強化指導指針に基づく推進委員会での役割分担について
- ⑤ホームページの活用について
- ⑥その他

第3回 平成14年9月2日(月)・3日(火)

参加者：広瀬均、飯田藍、梅林薫、藤井道雄、岩月俊二、浅沼道成、
中原かおり、西村覚、緒方うらら

内 容：地域への指導書、ビデオプログラム作成のための会議

- ①14年度(トップへの道)ビデオ作成のためのジュニア育成・
強化プログラムについて
- ②育成・強化プログラム 指導マニュアル(案)について
- ③トレセン構築へ向けた方向の検討
- ④同プログラムの地域推進策について
- ⑤その他

(2) 具体的な指導書・ビデオ作成のための情報収集ミーティングの開催

平成14年8月8日(木) 指導者養成グループミーティング

8月9日(金) コーチミーティング

8月10日(土) 育成・強化プログラム作成部会ミーティング
靱テニスセンター

参加者：指導者養成グループミーティング：飯田藍、中嶋康博、塚本新治、
中原かおり、浅沼道成、畑山雅史

コーチミーティング：広瀬均、飯田藍、梅林薫、中嶋康博、藤井道雄、塚本新治、
福井烈、岩月俊二、浅沼道成、中原かおり、西村覚、畑山雅史、正木茂、
白石正三、右近憲三、兼城悦子、米沢そのえ、溝口美貴、田島孝彦

育成・強化プログラム作成部会ミーティング：浅沼道成、飯田藍、井上直子、
岩月俊二、右近憲三、梅林薫、兼城悦子、白石正三、田島孝彦、
塚本新治、中村寛孝、藤井道雄、溝口美貴、米沢そのえ

内容：指導者養成グループミーティング

- ①8月9日開催の「テニス・コーチミーティング」について
- ②公認スポーツ指導者講師全国研修会について
- ③その他

テニス・コーチミーティング

- ①『JTA強化指導指針2002年版』に基づく日本のテニスの強化
指導について
- ②パネルディスカッション『ー日本のジュニア育成・強化の現状と
対策ー』
- ③グループディスカッション
- ④全体ディスカッション

育成・強化プログラム作成部会ミーティング

- ①今年度作成のビデオについて
- ②コーチから寄せられた意見について

(13)強化指導指針に基づく指導者育成プログラムの作成〔競技者指導育成推進委員会〕

13年度に、トップへの道I(ウォーミングアップおよび技術導入法、競技力向上
ドリル実践例)を作成したが、その前の段階として14歳以下のジュニアを対象とし

た身体トレーニング（身体を動かす基本動作）の必要性を感じ、前年度と前後するが、それをテーマとしたものを作成することにした。

こうしてできたものがトップへの道Ⅱ（身体トレーニング実践例）であり、その指導書（育成・強化プログラム 基礎トレーニング編）である。

このビデオと指導書は、9地域を通して各都道府県協会に配布され、さらに2003年3月に開催されたコーチーズカンファレンス（参加者352名）に参加したコーチには無料で配布した。

また、この内容等の理解を深めるため、次項目で報告する地域トレセン推進活動において、関係委員・コーチに説明・実践を行なった。

作成担当としては、当委員会のメンバーを中心に、スポーツ科学委員会、ナショナルコーチの協力を得て作成した。

(14) ナショナル及び地域トレーニングセンター設立の推進〔競技者指導育成推進委員会〕

① ナショナルトレーニングセンターについて

国立スポーツ科学センター、有明テニスの森公園等の候補地はあるが、まだ具体的にナショナルセンターとして機能するところまではいかない。現段階では、情報提供機能を中心に考えていた方が良く考える。特にジュニア育成については、遠征・試合以外はほとんどが現場での活動が中心になるので、適切な情報を提供し、現場で実践してもらうことがベストと考える。

② 地域トレーニングセンターについて

したがって、その情報を正確に伝えるために、地域トレセン・都府県トレセンは欠かせないものとなると思う。

現段階では、中国地区・広島県・山口県、東北地区・岩手県、九州地区・佐賀県、関西地区・大阪府・兵庫県等が、積極的に設置推進を行なっている。

特に、広島県・岩手県・兵庫県等は、行政とのタイアップもなされ資金援助も受けている。

(15) 地域トレーニングセンターへのコーチ派遣とそれに基づくナショナルと地域との連動〔競技者指導育成推進委員会〕

当委員会の中で、特に課題1・2を協力を推進するためにはナショナルと地域の連動が絶対的なものであり、一番重要な仕事と位置づけ推進してきた。

特に、13年度作成された「強化指導指針」に基づき作成された今年度の指導書とビデオの理解とその実行は、現場において欠かせないものである。そのために、地域での指導者研修会には力を入れてきたつもりである。

一貫指導システム事業を地域・県で積極的に取り組んでいるところには年1回ではなく2回出向き、指導者と推進会議ができたことは今後大きくプラスになると思う。

事業内容	1. 第1回目は指導書、ビデオに基づいた実践指導（全地域を対象とする） 2. 第2回目は積極的に推進している地域・ブロックに対して再度出向き、推進状況をチェックする。
事業成果	①本年度で3年目となった競技者育成プログラムは、2年間の地域研修で北海道・東北・関西・中国地域においては積極的に取り組み、その成果は出てきていると思われる。特に札幌・盛岡・兵庫・広島・山口の各県（地区）はそれぞれ個々のプログラムを作り、推進している。 ②昨年度作成した強化指導指針―トップへの道―に基づいた指導書「育

	成・強化プログラムー基礎トレーニング編ー」、ビデオ「身体トレーニング実践例」・「競技力向上ドリル実践例」が2セットできたことは、今後の指導者養成にも大いに役立つと考えられる。
	③地域研修会も年1回から2回、定期的に開催することができ、指導者の間でも関心が高まってきていることが伺える。
	④地域ジュニア合宿スケジュール
10月12・13日	九州地域・・・飯田藍、佐藤直子、坂本真一
10月19・20日	東北地域・・・広瀬均、森井大治、岩月俊二
10月19・20日	中国地域・・・飯田藍、山本育史、田島孝彦
11月3・4日	関東地域・・・橋爪功、鷺田典之、田島孝彦
1月12・13日	北信越地域・・・岩月俊二、山中夏雄
1月18・19日	九州（沖縄）地域・・・飯田藍、坂本真一、田島孝彦

(16)ITF ワークショップおよびカンファレンスの参加〔競技者指導育成推進委員会〕
今年度は参加しなかった。

6. テニスに関する競技規則及びアマチュア規定の制定並びにテニスランキングの作成

(1)全日本テニス順位の作成〔国内大会委員会〕

規定に従い、一般男女（オープンとアマ）、ベテラン、ジュニア、中学生、小学生の分野に分け、単27種目、複31種目について順位を作成し、平成15年年1月24日に発表した。

(2)JTP ランキング、JOP ランキング(一般・ベテラン)の作成〔国内大会委員会〕

JTP ランキングの公表は平成15年1月より公表、JTP ランキング・JOP ランキングとも基本的には翌月10日過ぎに発表。ベテランJOP ランキングは、大会日程の関係で年6回（5、7、8、10、12の各月10日までに）発表した。

(3)競技規則の拡充と管理〔国内大会委員会〕

- ①トーナメント改革による新システム実施に伴い、発見された修正点の整備を行った。
- ②ITF・ATP・WTA等の規則学習と必要項目のテニスルール・ハンドブックへの導入と翻訳に関わる作業を実施した。

7. 日本テニス界を代表して、財団法人日本体育協会、財団法人日本オリンピック委員会、国際テニス連盟(略称I.T.F.)及びアジアテニス連盟(略称A.T.F.)に加盟すること

(1)国際テニス連盟及びアジアテニス連盟公式会議の出席ならびに海外からの各種資料の収集と情報提供〔国際委員会〕

①国際会議へ派遣及び出席者

1)国際テニス連盟(ITF)関係

a. 総会：2002年6月10日～14日 於マラケシュ（モロッコ）

出席者：川廷栄一副会長、内山常務理事、川廷尚弘国際委員

内容：各事業及び決算報告、加盟国等の承認、新ルールの採用他。

- b. 理事会
出席者：川廷栄一理事、ロンドン他年間3回出席。
 - c. 委員会
ジュニア委員長、オリンピック委員会：川廷栄一が各委員会に年1～3回出席。
男子テニス委員会、チャレンジャージョイント委員会：川廷尚弘が各委員会に年1～3回出席。
 - d. 事務局：川廷尚弘が ITF/ATF トーナメントエグゼクティブフルタイムスタッフとしてアジアのテニス発展途上国の指導。
- 2) アジアテニス連盟 (ATF) 関係
- a. 総会：開催せず
 - b. 全体会議：2002年6月11日 於マラケシュ (モロッコ)
出席者：川廷栄一、内山勝、川廷尚弘
 - c. 理事会：2002年10月17日 於タシュケント (ウズベキスタン)
出席者：川廷栄一、川廷尚弘
 - d. ATF トーナメントワークショップ：
2002年10月31日於クアラルンプール (マレーシア)
出席者：熊井ユリ、川廷尚弘 (ATF 側)
- ②国際行事・大会への出席及び担当
- 1) アジア大会：2002年10月 於プサン (韓国)
川廷栄一が運営全般、川廷尚弘がレフェリーとして運営を担当。
 - 2) ATF コーチフォーラム：2002年10月 於ドバイ (UAE)
出席者：川廷栄一
 - 3) ATP アジアフォーラム：2002年11月 於上海 (中国)
出席者：川廷栄一
- ③海外からの役員への対応
- 国際テニス連盟リッチビッティ会長、韓国テニス協会チョンイル会長、インドネシア協会ウィジャヤ会長が (財) 日本テニス協会80周年祝賀会に出席の為来日。盛田会長、川廷副会長、渡邊専務理事他で対応。
- ④海外での JTA 役員等への対応
- 全豪、全仏、全英、全米他世界各大会への協会役員等出席に際し、ITF 並びに当該協会に対し、ID カードの申請、現地での対応を要請。
- ⑤日本オリンピック委員会 (JOC) 関係
- 1) 川廷栄一理事… (2003年度、副会長に選任)
 - 2) JOC 関係の会議・行事に出席し、各々の事業に協力。

(2) 財団法人日本体育協会の公式会議に出席 [国体委員会・普及指導委員会]

- ①国体委員会
期日：平成 14 年 6 月 25 日 (火)
場所：日本体育協会理事監事室 (岸記念体育会館)
参加：日本体育協会加盟団体
内容：今後の国体簡素化とドーピングについて
国体の簡素化については、夏秋一本化と参加人数の削減であり、最小 5 %～最大 15 %となり、テニス協会は 8 %削減となる。
- ②普及指導委員会
期日：平成 14 年 12 月 13 日 (金)
場所：岸記念体育会館

内容：(財) 日本体育協会の全国連絡会に出席した。

③普及指導委員会

期日：平成 15 年 3 月 26 日(水)

場所：東京・大久保

内容：(財) 日本体育協会の事業説明会に出席した。

(3)財団法人日本オリンピック委員会の公式会議に出席〔強化委員会〕

①強化委員会…下記会議をはじめとして、各種会議に出席。

1)期日：平成 14 年 5 月 14 日(火)

場所：岸記念体育会館

内容：JOC 選手強化本部会議

2)期日：平成 14 年 6 月 21 日(金)～ 22 日(土)

場所：国立スポーツ科学センター

内容：JOC コーチ会議

3)期日：平成 14 年 7 月18日(木)

場所：岸記念体育会館

内容：アジア大会監督会議

4)期日：平成 14 年 9 月18日(水)

場所：岸記念体育会館

内容：アジア大会監督会議

5)期日：平成 14 年 11 月18日(水)

場所：岸記念体育会館

内容：アジア大会反省会議

(4)オリンピック強化指定選手の認定〔強化委員会〕

JOC に対し、下記の男子 6 選手、女子 7 選手の計 13 選手を申請し、認定を得た。

鈴木貴男・石井弥起・トミー嶋田・本村剛一・寺地貴弘・近藤大生

杉山愛・浅越しのぶ・小畑沙織・吉田友佳・佐伯美穂・藤原里華・森上亜希子

8. 年鑑その他の刊行物の発行

(1) 80 周年史の編集及び発行〔総務委員会〕

80 周年史の編集及び発行は CD-ROM による年史を刊行、平成 15 年 3 月 25 日 開催の記念式典会場にて配布。

内容：名誉総裁 秋篠宮殿下の「御ことば」

傘下地域協会等現況報告、関係先からの祝辞、過去 10 年間の大会等記録集他

(2) コートの友(テニスルール・ハンドブック)の編集および発行〔国内大会委員会〕

① 2002 年度版の販売促進(2002 年 4 月～ 2003 年 2 月) … 4,652 冊

② 競技規則類の拡充と管理を主資料とした 2003 年版の編集、発行と販売
(2002 年 4 月～ 2003 年 3 月) … 12,503 冊

(3) コートの友(テニスルール・ハンドブック)の改訂作業への協力〔審判委員会〕

「2003 年度版コートの友」の改訂作業については、例年通り、審判・レフェリー関係の部分の改訂に協力した。

(4) JTA ニュースの編集および発行〔広報委員会〕

JTA ニュースを JTA の「年次事業報告書」(アニュアルレポート)と位置づけ、地域、都道府県協会をはじめ、JTA 内外へ JTA の事業内容、事業報告、今後の計画等への理解を得るための広報誌として 9 月 1 日に発行した。11,000 部印刷し地域、都道府県協会および関係団体への配布のほか、大会プロモーションへの活用、一般への販売も行った。

(5) テニスプレーヤーズガイドの編集および発行〔広報委員会〕

従来マスコミ、メディア向けのハンドブックとして発行していたテニスプレーヤーズガイドを、テニスイベントの企画運営を行うスタッフや一般愛好者向けガイドとしても位置づけて編集および発行を行った。印刷部数は 1000 部でマスコミ、メディアおよび選手用に 350 部、テニスイベントの企画運営にあたるスタッフ (JTA 役員など) およびクラブ JTA ゴールド会員用として 150 部を配布し、残り 500 部は一般愛好者に販売することとした。

9. テニスに関する用具及び施設の検定並びに公認

(1) テニスに関する用具の認定、公認〔総務委員会〕

当該期間中に以下 公認、推薦申請を処理した。

- ①公認：ボール 6 社
- ②推薦：ラケット、ウェア、コート、シューズ、ネット、ストリング、ラインテープ、スポーツコンタクト、スポーツサングラス、合計 43 社

10. テニス施設の管理運営

(1) スポーツ施設を守る会への活動支援 (普及委員会)

- ①スポーツ施設を守る会の構成団体の一員となり、テニスクラブを代表とするスポーツ施設の減少に歯止めをかけるべく、他の関連団体との連携を図り、「民間スポーツ施設に係る税制改正要望」に関する請願署名運動を推進し、21,000 名を超える方々の署名を得た。(スポーツ施設を守る会全体では 140,000 名の署名)
- ②平成14年11月14日、参議院議委員会館第5会議室にて開催された「民間スポーツ施設税制検討会」にスポーツ施設を守る会として参加した。

11. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) JTA 表彰〔総務委員会〕

表彰規程に基づき表彰候補者の選定を行った。

- ①功労者 20 名、企業賞 2 社、特別賞 1 社、優秀指導者賞 3 名に対しては、平成 14 年 5 月 24 日(金)岸記念体育会館内スポーツマンクラブにおいて伝達式を行った。
- ②最優秀選手賞 1 名、優秀選手賞 6 名、ジュニア大賞 3 名については、平成 14 年 11 月 23 日(土)有明コロシアムにて開催中の第 77 回全日本テニス選手権大会女子決勝

の際、コート上にて表彰を行った。

(2) 80周年記念事業〔総務委員会〕

平成15年3月25日(火)、新高輪プリンスホテル「飛天の間」において、名誉総裁 秋篠宮殿下のご臨席を賜り、1,100名の関係者ならびにテニス愛好者の参加を得て盛大に挙行了した。

(3) 諸規程の新設改訂〔総務委員会〕

- ① 寄付行為改定を視野に入れ主務官庁である文部科学省との交渉を行った。
- ② 諸規定の改定は下記の通り、平成14年度中に合計10件の処理をした。
 - 1) 第1回理事会：寄付行為細則第11条、専門委員会分掌事項（総務委員会）
 - 2) 第3回常務理事本部長会議：JTT大会管理規則（国内大会委員会）
 - 3) 第4回常務理事本部長会議：全日本ベテラン大会管理規則（ベテラン委員会）
 - 4) 第6回常務理事本部長会議：全日本テニス順位制定の基準（ジュニア委員会）
 - 5) 第8回常務理事本部長会議：選手報奨金規程（総務委員会）
 - 6) 第10回常務理事本部長会議：公認審判員規程（審判委員会）
 - 7) 第11回常務理事本部長会議：表彰者選考基準（総務委員会）
 - 8) 第2回理事会：寄付行為細則第11条、専門委員会分掌事項（総務委員会）

(4) 各種イベントの後援申請等の審査〔総務委員会〕

スポーツキッズ実行委員会から「スポーツキッズ in ドーム」の後援申請をはじめとして、年間8イベントを審査し常務理事本部長会議に上程した。

(5) プロフェッショナル選手の登録管理〔選手委員会〕

JTA 競技者規定に基づき競技者の認定ならび新規プロフェッショナル登録者の承認、アマチュア復帰申請に対する実績審査、承認を行った。

- ① 男子プロフェッショナル132名
(レベルⅠ...15名、ⅠTP...24名、レベルⅡ...8名、ⅡTP...16名、
レベルⅢ...6名、ⅢTP...23名、レベルⅣ...40名)
- ② 女子プロフェッショナル58名
(レベルⅠ...14名、ⅠTP...28名、レベルⅡ...3名、ⅡTP...4名、
レベルⅢTP...6名、レベルⅣ...3名)

(6) テニスメディカルセミナーの開催〔医事委員会〕

テニスにおける外傷・障害に対し、スポーツ医学の面からの研究と対策・提言につき、セミナーで講演をした。受講対象者は、スポーツドクターをはじめ選手・指導者・トレーナー・一般テニス愛好家まで幅広い方々であった。

- ① 第8回テニス・メディカルセミナー
期 日：平成14年6月15日(土)
会 場：東京慈恵会医科大学・南講堂
講 師：石井 朝夫先生
テーマ：「スポーツ選手の足関節(足首)捻挫」～治療とリハビリテーション～
参加者：74名
- ② 第9回テニス・メディカルセミナー
期 日：平成14年11月30日(土)
会 場：東京慈恵会医科大学・U1-3階講堂
講 師：吉岡 利忠先生

パネラー：蝶間林 利男先生、梅林 薫先生、及能 茂道先生
テーマ：「テニスにおける筋肉痙攣と熱中症」～痙攣で、勝てる試合を逃がしたことはありませんか！！～

参加者：116名

③第10回テニス・メディカルセミナー

期 日：平成15年3月29日(土)

会 場：東京慈恵会医科大学・U1-6階講堂

講 師：別府 諸兄先生

テーマ：「テニスエルボーの予防と対策」～つらいテニスエルボーとの訣別!!～

参加者：134名

- ④なお、第8回から、日程の関係や遠隔地のため受講出来なかった方々にも、最新のスポーツ医学の知識とノウハウをご活用頂けるよう、セミナーの内容をCD-ROMに収録し、頒布することとした。

(7)国際大会・全国大会へのドクター・トレーナーの派遣体制の確立〔医事委員会〕

①国際大会・全国大会への派遣

1)デ杯対インド戦(平成15年2月7日～9日)については、在日本国大使館松木孝道医務官の献身的なご協力により、日本チームに対するメディカルサポートを実施することが出来た。松木医務官には、事前にインドの衛生状態に関する詳細な情報を頂くと共に、インド滞在中、選手の体調管理のため、早朝から深夜まで、きめ細かなサポートをして頂いた。また、大塚製薬のご協力により大量のスポーツドリンク等をご提供頂いた。

2)デ杯対パキスタン戦(平成15年4月4日～6日)については、3月24日～28日のデビスカップ第一次合宿に於いて、メディカルチェックを実施した。また、第2次合宿及び試合当日に、2名のドクター派遣すべく手配をすると共にトヨタ記念病院へ救急対応の依頼をした。

3)フェドカップ2003(平成15年4月21日～26日)へのドクター派遣を手配した。

4)「トヨタプリンセスカップ」「AIG Open」「全国レディーステニス大会」「全日本テニス選手権大会」「東レPPO」各大会へトーナメントドクターを派遣した。なお、②～④のドクターは、聖マリアンナ医科大学、東京医科歯科大学、日本大学医学部、昭和大学医学部藤が丘病院、東京慈恵会医科大学、北里大学医学部、東海大学医学部、茨城医療大学、群馬大学医学部、横浜市大医学部、杏林大学医学部、京都大学医学部、岐阜大学医学部の医局のご協力を頂き、ローテーション体制で派遣した。

また、①～④について、それぞれトレーナーを派遣し、要望に添った運営を行った。更に「全日本学生テニス選手権大会」「全日本学生室内テニス選手権大会」「全日本大学対抗戦」「全日本ベテランテニス選手権大会」にもトレーナーを派遣すると共に、アジア大会(韓国)の日本チームへのトレーナーの帯同も行った。

②全国規模のジュニア大会への派遣

1)「全国中学生テニス選手権大会」にドクターを派遣した。

2)「世界スーパージュニアテニス選手権大会」にドクター・トレーナーを派遣した。ドクターは、大阪医科大学、関西労災病院、大阪府立母子保健総合センター、大阪第2警察病院、松下記念病院のご協力を頂いた。

3)「トヨタジュニア」「ジャパンオープンジュニア」「全日本ジュニア選抜テニス選手権大会」にトレーナーを派遣した。

③講習会、セミナーへの講師派遣

「公認指導者講習会」「公認スポーツ指導者講師全国研修会」「JTA コーチーズカンファレンス」に講師を派遣した。

(8) テニス障害について、スポーツ医学面からの対策を実施〔医事委員会〕

① テニス外傷・障害に対応する、ドクター・トレーナーのネットワーク造りを推進した。諸大会時・セミナー開催時に開催地のドクターの協力を得ると共に、その後のメディカルサポートを依頼し、ネットワークを拡充した。全国各地域での地域メディカルサポート部員 46 名の名簿は、JTA ホームページに公開し、サポートを必要とする方からの連絡を呼びかけている。

② ナショナル選手に対するメディカルサポートの実施。

デ杯対タイ戦及び対インド戦における日本チーム選手の体調管理の苦い経験を生かし、デ杯対パキスタン戦の第一次合宿に 2 名のドクターを派遣、メディカルチェックを実施、選手及びトレーナーへのアドバイスをを行った。メディカルチェックのデータは、専門のソフトによりコンピューター管理し、今後のメディカルサポートに役立てることとした。

この体制を、強化本部との協調により順次拡充し、ナショナル選手の日常からの十分な体調管理が可能となるメディカルサポートシステムを構築することに繋げたい。

(9) テニスと視覚能力に関し、「スポーツビジョン」の研究を行った〔医事委員会〕

テニスにおける情報の殆どは視覚によって得られている。この視覚情報の収集能力が視機能(狭義の「スポーツビジョン」)で、テニスは視機能全般にわたりその重要性が高く、競技力にも多大なる影響を与えるとされる。従って、視機能の測定と啓蒙の為にプロジェクトを、スポーツビジョン研究会のご協力を得て平成 14 年 4 月に立ち上げた。今年度の測定協力者は、ジュニア 30 名、一般プレーヤー 20 名である。その分析結果やテニスへの活用についての提言は、平成 14 年 9 月 7 日開催の「第 9 回スポーツビジョン研究集会」で報告した。また、平成 15 年 3 月 8 日開催の「JTA コーチーズカンファレンス」において講演した。

(10) 「メディカルサポート小委員会」の設置と活動の開始〔医事委員会〕

デ杯対タイ戦時、炎暑下の試合での日本選手の痙攣を今後の大きな課題と受け止め、併せて、次の対インド戦に於いては万全の体制で試合に臨んで頂けるよう日本チームに対するメディカルサポートも目的として、委員会内に「メディカルサポート小委員会」を平成 14 年 12 月に設置し活動を開始した。その活動の一環として上述のデ杯インド戦・パキスタン戦でのメディカルサポートを実施した。

(11) 地域メディカルサポート体制の促進〔医事委員会〕

① スポーツ科学委員会との打合せの機会を持ち、地域トレーニングセンターの設置に関する地域のスポーツドクターの活用につき具体策を協議した。

② 地域でのメディカルサポートの試みとして、地域活動が最も活発な北海道地域と中国地域の地域代表に、テニス・メディカルセミナーの CD-ROM を活用しての講演会・研修会の開催を提案した。

③ 地域活動の一環として、平成 14 年 11 月横浜で開催された「日本スポーツマスターズ大会テニス競技」にドクターを派遣した。

(12) テニスに関するスポーツ医学の交流〔医事委員会〕

平成 14 年 6 月にスウェーデンで開催された「Fifth STMS World Congress on

SportsMedicine and Science in Tennis」に2名のドクターを派遣し、世界最新のテニスに関するスポーツ医学の情報を得た。今後の委員会活動に活用する。

(13) テニス障害に関する諸情報の発信〔医事委員会〕

医学面からの諸情報を、JTA ホームページ、テニス・メディカルセミナーを通じて広くテニス界に発信した。

(14) 国際大会ディレクター会議の開催〔国際大会委員会〕

国際大会ディレクター会議等の開催

平成 14 年 5 月 15 日	女子サーキットディレクター会議
5 月 28 日	カレンダー検討会議
5 月 21 日	フューチャーズ (F6・8) ディレクター会議
7 月 24 日	カレンダー日程調整会議
10 月 24 日	フューチャーズ反省会
平成 15 年 3 月 11 日	トーナメントディレクター会議

(15) JTT 大会ディレクター会議の開催〔国内大会委員会〕

JTT 大会ディレクター会議は下記の2回開催した。

- ①第1回会議は平成14年10月9日に岸記念体育会館内の会議室にて開催し、出席者は13名であった。
- ②第2回会議は平成15年2月14日に岸記念体育会館内の会議室にて開催し、出席者は12名であった。

(16) スケジュール調整会議の実施とテニスカレンダーの作成・発行〔国内大会委員会〕

- ①スケジュール調整会議は平成14年11月29日、岸記念体育会館内の会議室にて開催し、出席者は83名であった。
- ②2003テニスカレンダーは平成15年1月15日に作成し、1月末発表。訂正や変更事項については随時改定し、ホームページに掲出することとした。

(17) 国体テニス競技開催地への正規視察の実施〔国体委員会〕

2008年国民体育大会（大分大会）の正規視察を下記概要にて行った。

期 日：平成15年1月15日(水)～16日(木)

場 所：大分県大分市

参加人数：JTA3人、大分県TA5人、大分県4人、大分市4人の計16人

内 容：平成18年までに大分市大字松岡大分スポーツ公園（ワールドカップ使用ビックアイ）内に20面の砂入人工芝コートを整備予定。二期工事見直しのため、公園内での場所変更有り、ナイター設備10面予定。練習コートは市営コート（砂入人工芝10面）を使用予定、テニス協会としてインドア4面と全面ナイターを希望。宿泊、輸送についてはワールドカップの経験も有り、問題は無い。審判員についても平成20年迄に130人を目標に養成中。

(18) アマチュア選手の登録管理〔選手登録委員会〕

- ①アマチュア選手の登録者数は目標の9,000名に対して11.4%増の10,031名となり、この制度をスタートしてから6年目にして10,000名の大台を超えることが出来た。
- ①剰余金についても、予算の7,188千円に対して85%増の13,440千円を計上出来、

JTA の財政に大いに寄与することが出来た。

(19) クラブ JTA 会員の登録管理〔クラブ JTA 推進委員会〕

ジュニア育成および強化に係わる資金を獲得するため、本年度も主要な大会での会員募集およびメルマガ等による周知・勧誘を行い会員の増強を図った。この結果、新たに 123 名の入会をみたものの、会員証の 2 年毎の切替年度にあたり 54 名もの脱会希望があり、結局 69 名の純増（13.2 % 増）に止まった。本年度末現在の会員数はゴールド 36 名、シルバー 305 名、ブロンズ 251 名、合計 592 名である。

資金運用については、強化本部およびジュニア育成本部との連携のもと、添田・中原・川床・不田 4 選手を対象とした海外遠征中心の強化施策を支援し、各選手の著しい成長に貢献することができた。また、前年度に引き続き名地域協会への 3 割還元を実施した。

運用体制の整備については、クラブ JTA ホームページの改訂により会員への活動報告を充実させるとともに、法人対象の募金を増加させる仕組みを整えた。入会手続きの簡素化については次年度へ継続検討となった。

(20) 「テニスの王子様」との連動を図った継続的な情報発信〔企画委員会〕

① 幼少年の子供達に対する参加型イベントの企画・検討を行なう

- ・ 文部科学省、新聞社（地方新聞）、企業（コナミ、大塚製薬等）と交渉し、参加型イベントの具体的実施に向けた検討を行なう。

⇒ 参加型イベントに興味を持つ企業を 2 社獲得

15 年度にも、具体的なイベントを実施する為の計画を策定中

② 「テニスの王子様」との連動を図った、各種メディアへの情報発信の検討

- ・ テニス専門誌、子供向けコンテンツを制作している媒体社・放送局とテニスの王子様との連動を図った子供向けのテニスに関する情報発信の企画・検討を行なう。

⇒ 上記計画のイベントに連動した形で、CX の子供向け番組において、イベント告知等の企画を検討中

⇒ また、毎日新聞との連動企画も検討

(21) テニスの日事業への付加価値サービスの創出〔企画委員会〕

テニスの日推進協議会との連携を深め、事業本体の「テニスの王子様」とのタイアップによる付加価値サービスを実践し、「テニスの日」事業のアピールを高めた。

(22) 各種企画書の作成およびプレゼンテーションの実施〔企画委員会〕

下記各項目の企画書およびプレゼンテーション資料、ツール類の作成を行った。

① JTT 大会の創設およびトーナメント改革

② AIG ジャパンオープンテニス 2002

③ 全日本ジュニアテニス選手権大会

④ 全日本テニス選手権大会

⑤ 女子サテライトサーキット

⑥ 男子フューチャーズ大会

⑦ フェドカップ 2003 アジア/オセアニア地域予選の企画書およびマニュアル

(23) HP（ホームページ）の整備と情報発信〔広報委員会〕

テニスに関わる各種情報発信の手段として HP を開設し、またメールマガジンを発行している。HP は各主要大会の HP およびテニスにかかわる強化、指導、育成、普

及、審判その他広く情報の提供を行っている。HP へのアクセス数は年間 1500 万ページビュー程度と推察される。一方メールマガジンは原則、月二回発行するとともに主要大会の期間中は毎日発行している。年度末での読者数は約 7600 名である。

(24) 各種大会への誘客イベントの実施〔プロモーション委員会〕

① デビスカップの支援活動

4月5・6・7日タイ・バンコックでのタイ国との対戦でデビスカップ・日本チーム応援ツアーを実施。在タイ邦人の協力も得て約 200 名の応援団が連日日本チームを応援。

② フェドカップの支援活動

7月中旬 コロンビアで開催予定のフェドカップ・ワールドグループ入れ替え戦に際し、情報収集に協力。

③ 全日本ジュニア選手権の支援活動

大会支援のスポンサー（例：エビアン）発掘などの支援活動の実施。

④ テニスの日の支援活動

- 1) お台場テレコムセンターにて開催されたキッズテニス普及イベントへボランティア派遣等の協力（6月8日・7月13日・8月10日）。
- 2) 9月23日（祭）に有明テニスの森公園・コロシウムにて開催された「テニスの日」への協力。

⑤ AIG Japan Open の支援活動

- 1) インフォメーションカウンターの開設・運営など観客サービス向上を図る。
- 2) 東京都・神奈川県内に在る外国人が主に利用しているテニスクラブをプロモーション委員が個別訪問し AIG Japan Open の広報・観客動員活動を実施。
- 3) 有明テニスの森公園・コロシウム（協会主催・主管）での観客動員数が昨年比約 1 万人増の約 45,000 名となった。→ 選手、メディア（新聞・雑誌・TV放送）、観客（テニスサポーター）、スポンサー対策実施の相乗効果が現れた。

⑥ 全日本選手権大会の支援活動

- 1) インフォメーションカウンターの開設・運営による観客サービス向上を図る。
- 2) 文部科学省が新設した「総合的な学習」への支援協力を実施。
- 3) 観客動員数が昨年比約 1 万人増の約 25,000 名となった。

⑦ 東レ PPO における JTA コーナーの開設・運営（平成 15 年 1 月 25 日～2 月 2 日 予戦を含む）：

- 1) アジアテニス連盟（ATF）、国際協力事業団（JICA）の協力を得て、東レ PPO によるアジアへのテニスラケットプレゼントコーナー運営を実施。
- 2) JTA グッズ・書籍（テニス指導教本、コートの子、メディカルセミナー CD-ROM、ITF コーチマニュアルなど）の販売。
- 3) スポーツ施設を守る会署名活動・クラブ JTA 入会の勧誘活動・テニスメディカルセミナー案内活動等を実施。

(25) ホームクラブ制度の発足と運用〔プロモーション委員会〕

（社）日本テニス事業協会、普及委員会、強化委員会と協同にて、ナショナルトレーニングセンター返却に伴う選手強化拠点の喪失を補填するものとして、テニス選手の為の「ホームクラブ制度」を昨年発足させた。近藤大生プロなど 11 名の選手がこの制度を利用中。

(26) テニスサービス協会の具現化〔プロモーション委員会〕

盛田会長の掲げる「サービス精神」を常に具現化して行くことがテニス界の発展に繋がる事を改めて確認すると同時に今後もスポンサー、観客（テニスサポーター）、テニス選手、テニス施設供給者の満足度を向上させる為の提言・活動に結びつけることにした。具体的な活動内容配下の通り。

- ①テニスサポーターの満足度を高めるマスコミ・メディアとの交流活発化。
- ②スポンサーとの関係緊密化、満足度の向上。
- ③テニス選手支援対策。
- ④テニス関係団体、支援組織（TPC等）、インターネット事業者との関係緊密化。
- ⑤テニス施設供給者（東京都港湾局など）との関係強化。

(27) 各種情報のデジタル化と情報公開の促進と事務の省力化〔情報委員会〕

情報委員会は平成14年度より IT 企画委員会と統合し活動した。

(28) リアルタイムスコアボードシステム構築と運用〔IT 企画委員会〕

- ①リアルタイムスコアボードシステムの構築
14年度一次開発として「スコア入力」・「表示機能」を開発。
「ドロー作成」「オーダーオブプレー作成」機能を加えるとともに運用可能大会数を増加させるための汎用化は15年度に先送り。
- ②リアルタイムスコアボードシステムの運用
AIG オープン・全日本選手権の2大会で運用、インターネットでの情報提供に連携。但し、未開発部分を人手で補完しながらの運用であって、15年度開発の必要性が痛感された。

(29) ドーピング検査の実施〔ドーピングコントロール委員会〕

- ①全日本ジュニアテニス選手権大会におけるドーピング検査
実施期間：平成14年8月11日(土)～16日(金)
場所：靱テニスセンター(大阪市)
対象：男子選手4名、女子選手4名 合計8名
検査要員：検査員5名、助手8名 合計13名
検査結果：検査分析結果は、全員”異常なし”との判定を得た。
事業の経費：スポーツ振興くじの助成をうけ、予算内で充実した検査を実施することが出来た。
事業の成果：1)検査時、コートにおける気温は、38度もあり、選手の発汗が多かった為と思われるが、検査通告から採尿完了までに平均2時間近くを要した。しかし、選手達の協力により、検査手続きは順調に推移し、19時に終了した。平均2時間近くの検査手続きの間に、選手達とアンチ・ドーピングにつき話し合うことにより、選手の理解と認識を高めることが出来た。
2)大会役員用として「アンチ・ドーピングガイドブック」を70部と、新しく作成した「アンチ・ドーピングについて」(選手及び父兄・コーチ・指導者用資料)若干部を本部に配備したところ、2～3日の内に全部持ち帰られた。また、選手父兄のドーピング検査への関心が高まり、大会最終日まで検査について本部に照会があった由であり、ドーピングについて、身近な問題であるとの認識を高めて頂いたと考える。
3)本大会でドーピング検査を実施すると発表したところ、「ジュニア選

手に対して、何故検査を行うのか」との反発が、大会関係者、選手父兄から有った。それに対し、ジュニア選手に対する検査の必要性、従来の検査の実績などの資料により、直接の対話、文書などにより説明し、理解と協力を得る事が出来た。アンチ・ドーピングの啓蒙という面で大きな成果を挙げることが出来た。

②全日本テニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期間 : 平成 14 年 11 月 18 日(月)～ 24 日(日)

場所 : 有明コロシアム(東京都・有明テニスの森公園)

対象 : 男子選手 12 名 女子選手 12 名 合計 24 名

検査要員 : 検査員 7 名 助手 13 名 合計 20 名

検査結果 : 検査分析結果は、全員”異常なし”との判定を得た。

事業の経費 : スポーツ振興くじの助成をうけ、予算内で数多くの検査を実施することが出来た。

事業の成果 : 1) 24 名もの検査であったが、極めて円滑に実施することが出来た。

検査の対象になった選手達と、アンチドーピングについて、時間をかけて話し合い、諸資料も手渡す事が出来た。

2) 本大会におけるドーピング検査は、5 回目であったが、選手・コーチ等の意識も変わり、大会前から大会中にかけて、服用中の薬に禁止薬物が含まれていないか、問い合わせるケースも目立って多くなってきた。アンチ・ドーピングに関する認識、理解が高まって来ていると思われる。

(30アンチ・ドーピング啓蒙活動の実践〔ドーピングコントロール委員会〕

①選手及び父兄・コーチ・指導者用資料「アンチ・ドーピングについて」を作成。

全日本ジュニアテニス選手権大会にてドーピング検査を実施するにあたり、ジュニア選手にも判りやすい資料「アンチ・ドーピングについて」を作成した。同大会の地区予選大会に参加する選手用に、各地域に 500 枚、全国 9 地域で合計 4,500 枚を配付した。その後も、全日本学生テニス選手権大会、全日本テニス選手権大会等諸大会や指導者講習会などの機会に配付し、アンチ・ドーピングの啓蒙に活用した。

②ホームページの開設

JTA ホームページ内に、「ドーピング関連情報」のページを平成 14 年 8 月 28 日に開設した。内容は、「事業計画」「委員名簿」「国内におけるドーピング検査に関する規約」「使用可能な薬のリスト」「知って欲しいドーピングの知識」「ドーピング検査 Q&A」「アンチ・ドーピングについて」である。判りやすく、実務的な内容になっていて、アンチ・ドーピングの啓蒙に役立っている。

③照会対応

ドーピングに関するテニス界からの諸照会に対し、速やかに具体的な回答をした。

④講演・講習会への講師派遣

スポーツ医学セミナーでの講演、公認指導員講習会の講師を派遣した。

(31テニス資料館設立の準備〔テニス資料館準備室〕

平成 14 年 4 月 16 日の日本テニス協会 (JTA) 平成 14 年度第一回常務理事・本部長会議で、総務本部の臨時プロジェクトとして「テニス資料館準備室」が認められ、一年間の活動概況は以下の通り。

① JTA 創立 80 周年記念祝賀会 (平成 15 年 3 月 25 日) 特別展示を「(第三回)輝ける日本のテニス史展」として開催した。

- ② JTA 所蔵史資料の整理ならびに日本テニス史資料の所在状況の把握と受け入れ準備を行った。
- ③ 「日本テニス年表」(電子データ)の作成を行った。
- ④ 史資料保管場所を視察し、「テニス資料館準備室予定資料リスト」「所蔵映画フィルムリスト」「テニス資料館カード」を作成した。
- ⑤ 第 77 回全日本テニス選手権の会場における「全日本歴代チャンピオン・パネル展」写真収集に協力した。
- ⑥ 海外テニス・ミュージアム視察(フランス協会のテニス・ミュージアム)を行った。
- ⑦ フジ TV「めざましテレビ」でのテニスボールの歴史に関する取材協力を行った。

(32) JTA 各専門委員会活動

平成 14 年度事業計画に基づき、以下の委員会は専門委員会分掌事項に定められた業務を分担遂行した。

総務委員会、選手委員会、医事委員会、強化委員会、スポーツ科学委員会、ジュニア委員会、競技者指導育成推進委員会、国際大会委員会、国内大会委員会、審判委員会、ベテラン委員会、実業団委員会、国体委員会、選手登録委員会、普及指導委員会、国際委員会、クラブ JTA 推進委員会、企画委員会、広報委員会、プロモーション委員会、情報委員会、I T 企画委員会、ジャパンオープン委員会、ドーピングコントロール委員会、ドーピング判定委員会
危機管理委員会、テニス資料館準備室

以上